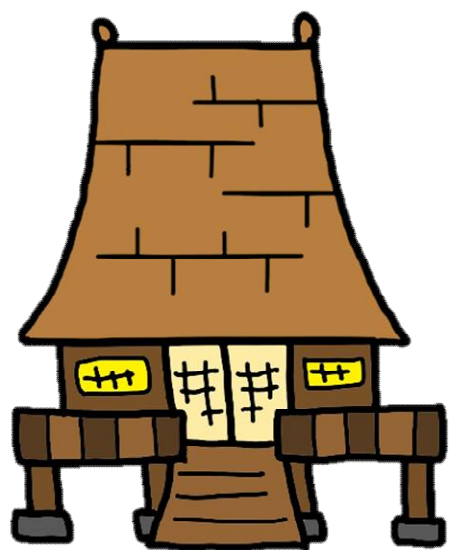
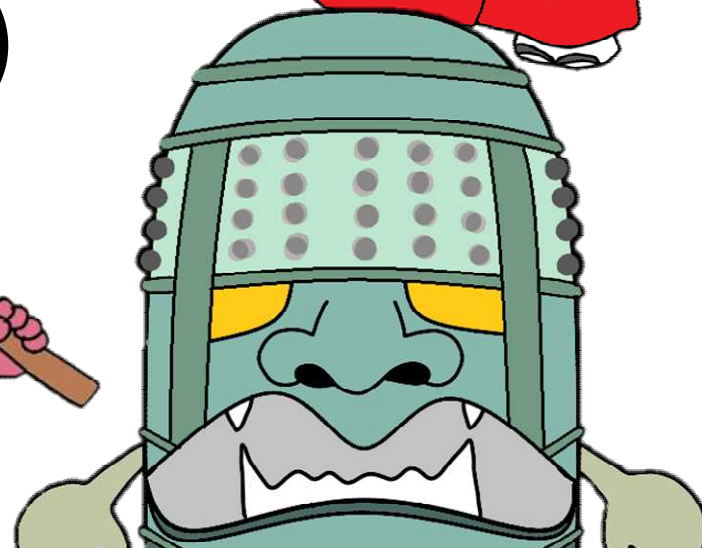
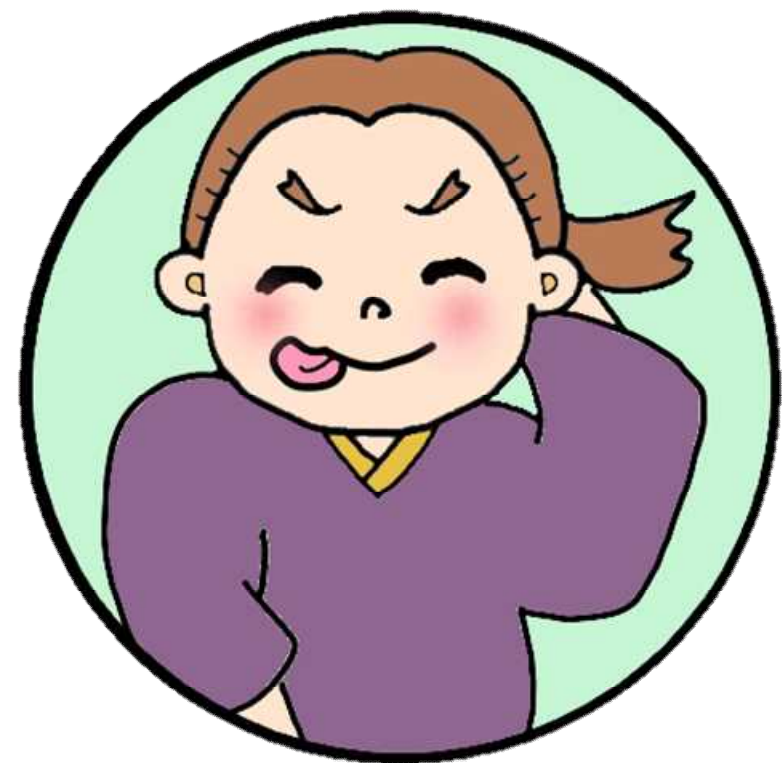


つがるの昔っこ(昔話) 20

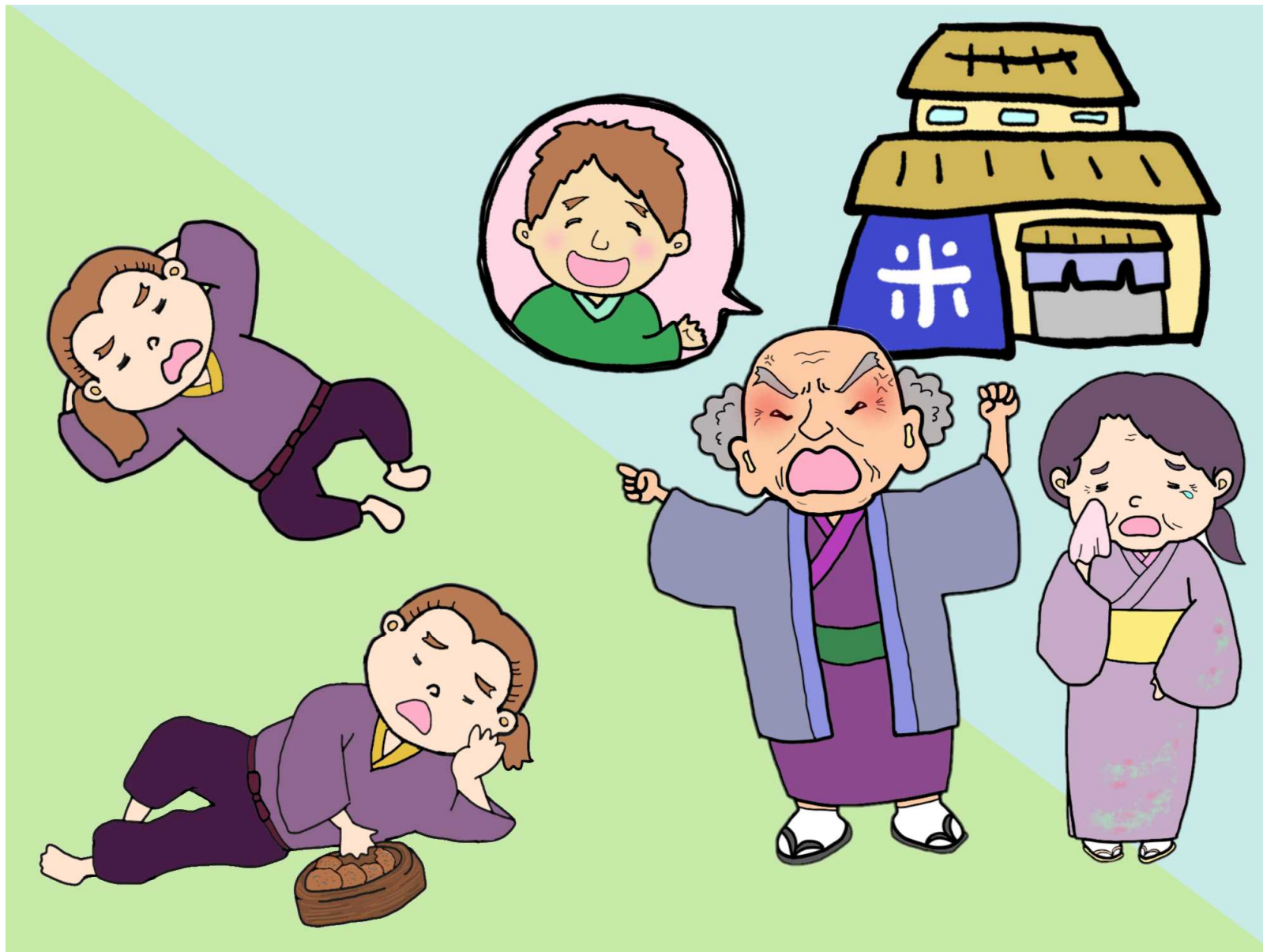


化け物寺
(木魚・鐘・太鼓)
(標準語)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト、カラーリング：
やざわ ゆな

昔、大きい商人の家に、怠け者の長男がいました。
何も仕事をせず、ゴロゴロしていました。そのせいで、親達が
『お前みたいな怠け者にこの家を継がせるわけにはいかない。
家は次男に継がせるから、何処へでも出て行け』といい、長男と親子の縁を切りました。



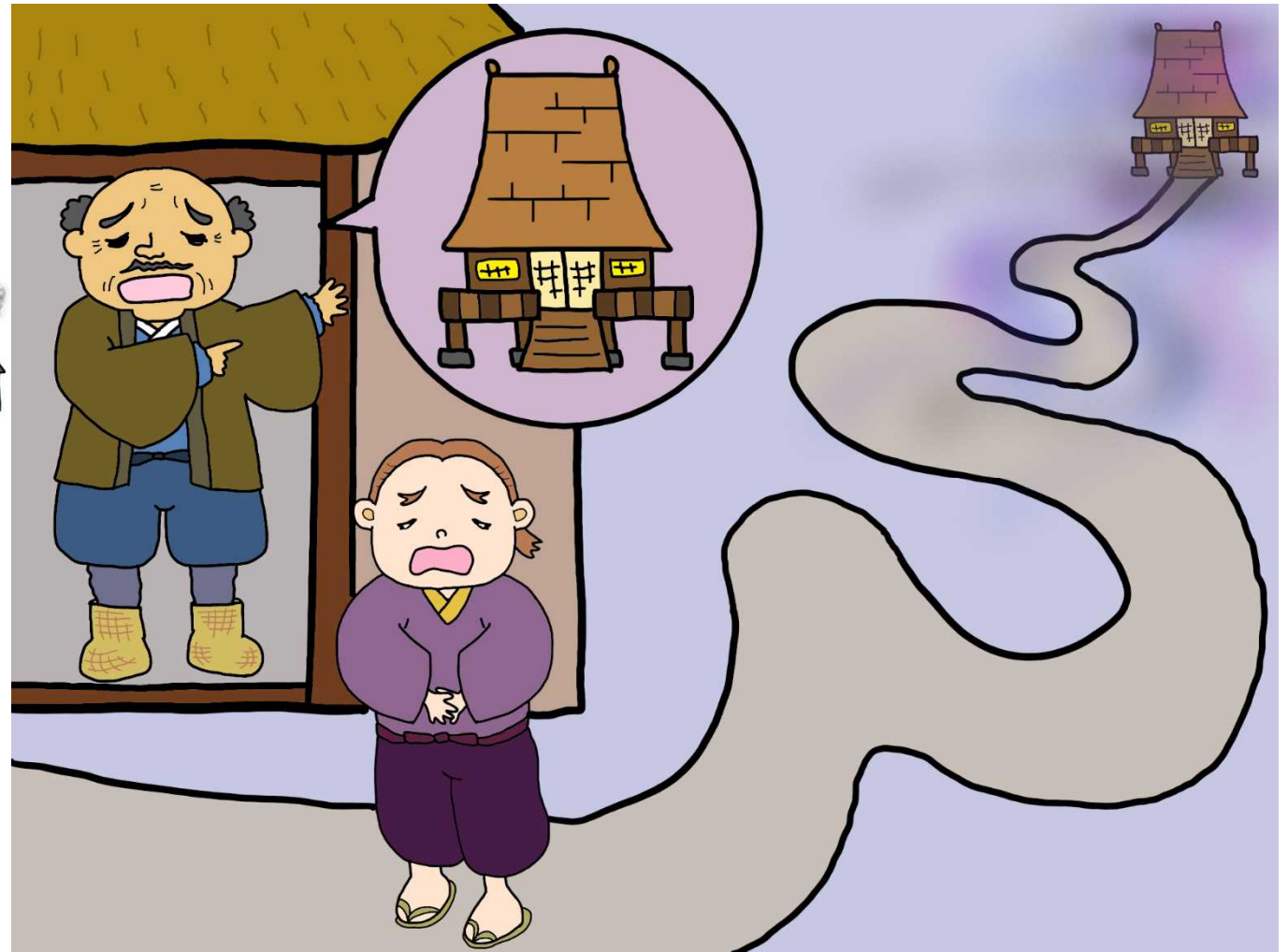
長男は出て行ったものの、お腹は減り、辺りは暗くなってきます。

ようやく知らない村へ到着しました。

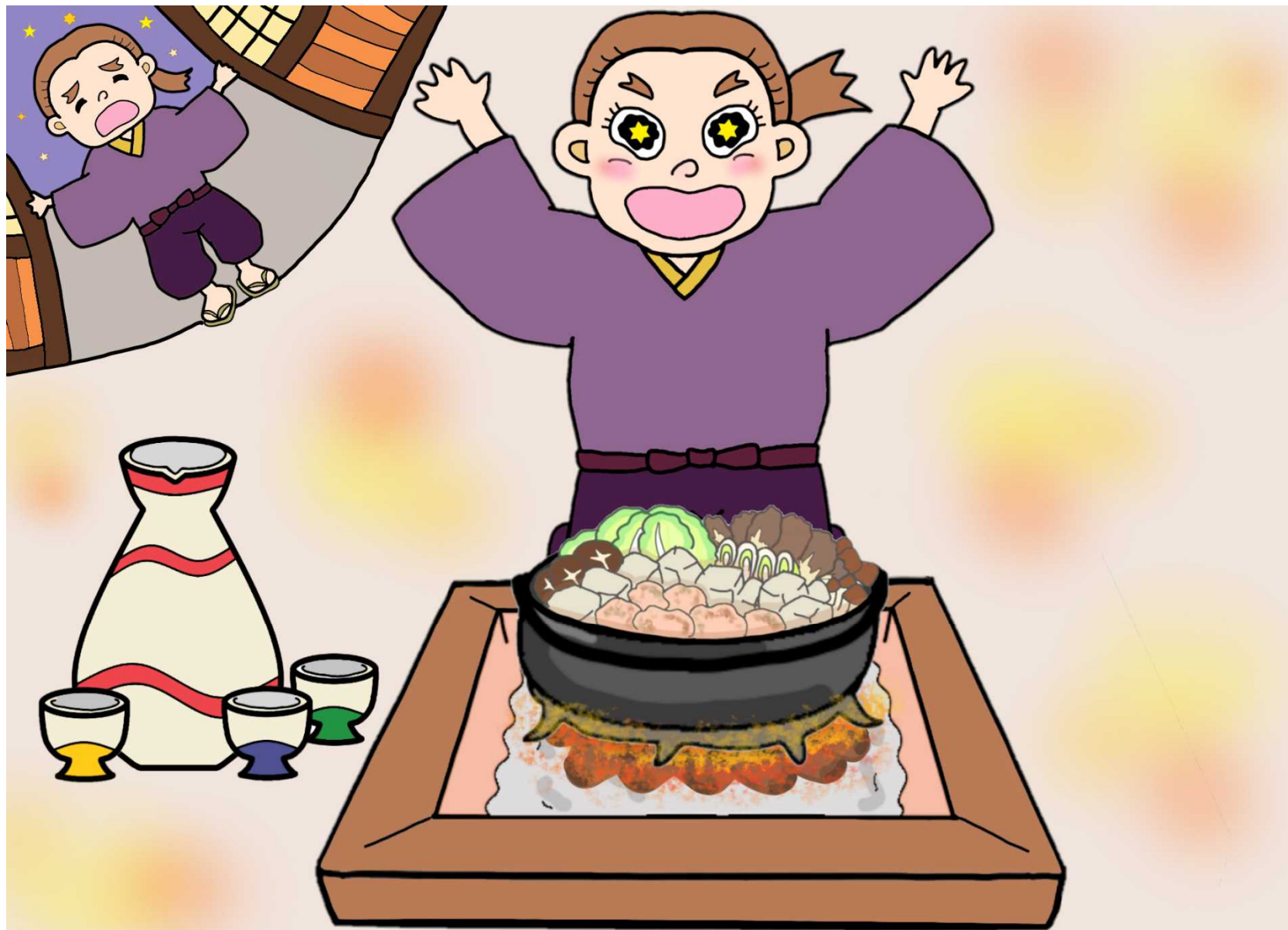
『泊めてください』と歩き回りましたが、誰も泊めてくれません。

村はずれの家の方が『あそこに古い寺があるので、そこに行って泊まったら良いよ』と教えてくれました。

ところが、そこは化け物寺でした。



何も知らない長男は寺へと向かいました。
到着すると、囲炉裏に火がこうこうと焚いてあり、美味しそうな汁がグツグツ煮たっていて、
側には酒の徳利が置いてありました。
『誰かいませんか?』と聞いても誰も出てきません。
腹が減った長男は、我慢ができなくなって、お鍋の汁を2杯、3杯と食べ、酒もくいと飲みました。



すると、家の奥から、ガヤガヤと賑やかな声がしてきました。

長男はハッとして、押し入れの中に隠れました。

押し入れの戸を少し開けてみると、囲炉裏の周りに座っていたのは、古い木魚と、鐘と、太鼓の化け物でした。化け物たちは、鍋をつついて大騒ぎ。

『近頃、俺たちのことが知られてきたのか、この寺に来る人間が誰もいなくなったな。しばらく人の血も飲んでいないし、肉も食べていない。誰か迷ってくる人いないかなあ』

『そうだなあ。あ～あ、人の肉をお腹いっぱい食べたいな』

それを聞いていた長男は、びっくりしました。こわくてこわくて、ブルブルと震えて、小さくなっていました。



そうこうしているうちに、
『そろそろ始めるかあ』と、化け物たちは立ち上がって、踊り始めました。
古い木魚に古い鐘♪

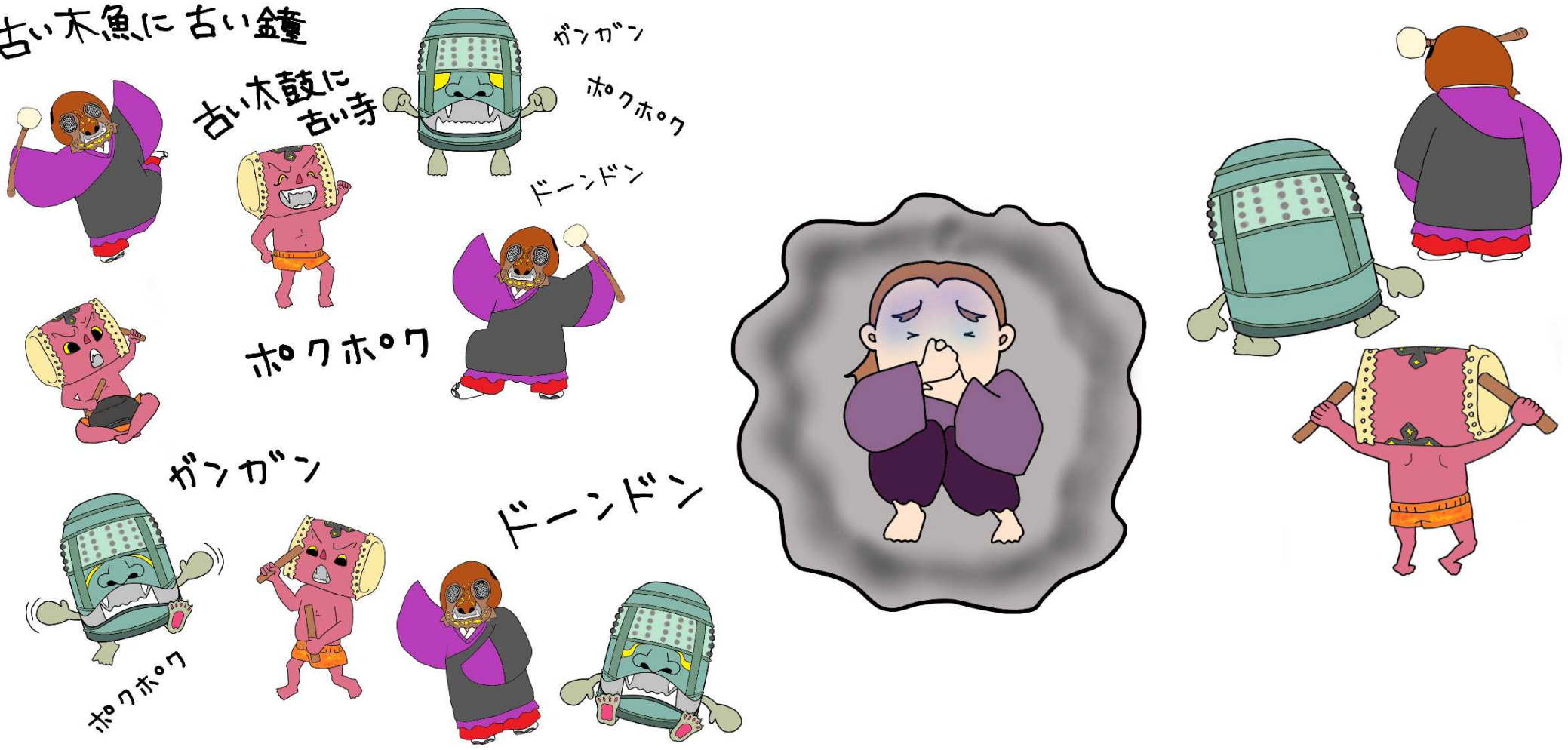
古い太鼓に古い寺♪
ポクポク ガンガン ドーンドン♪

長男は、食べられないようにと、押し入れの中で、目をぎゅっとつぶり、咳が出たらいけないと思って口を押さえて、くしゃみが出たらいけないと思って鼻をつまんで、静かに静かにしていました。

化け物たちは、調子づいていつまでも踊っていましたが、鶏の鳴く声が聞こえてきたところで『さあ、今夜はここまでにしよう』といって、木魚と鐘と太鼓は、元の場所へと戻っていきました。

古い木魚に古い鐘

古い太鼓に
古い寺



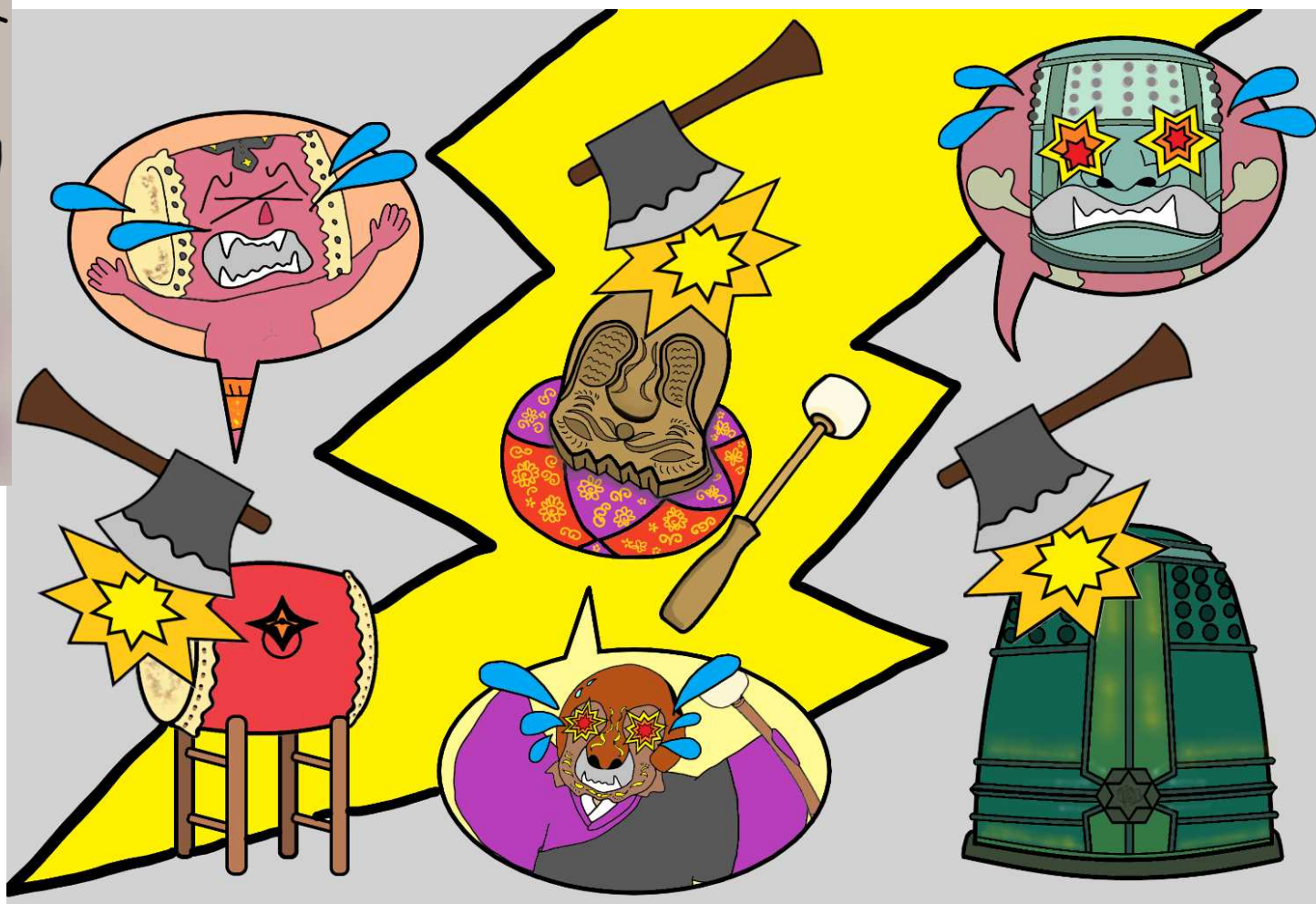
長男は、おそろおそろ押し入れから出ると、台所の側のついでに、おのが立てかけてありました。

これはいいものを見つけたと思い、それを持って木魚を思いきりたたき割りました。木魚は『ぎゃー』と叫んで静かになりました。

今度は鐘を思い切りたたきつぶすと、鐘も『ぎゃー』と叫んで静かになりました。

最後に、太鼓も思い切りたたきわり、皮をさきました。

太鼓も『ギャー』と叫び、静かになりました。



そこへ、昨晚、寺に泊まるのを勧めた人や、村人たちが次々きて、長男が退治した化け物を見て、とても驚き、大喜びしました。『これこれ!これが今まで人を獲って食べていた化け物たちだ。よくぞ退治してくれた。これでもう村は安心だ』といい長男を村へ連れていきたくさんご馳走しました。

村長などみんなが来て

『これからは安心してお寺へ行って、先祖の供養ができます。

しいては、あなた様、この寺の住職になってくれませんか』と頼みました。

『私はなにもわからないのでできません』と言っても、みんなはどうしてもと言い、長男はとうとうこの寺の住職になってしまいました。



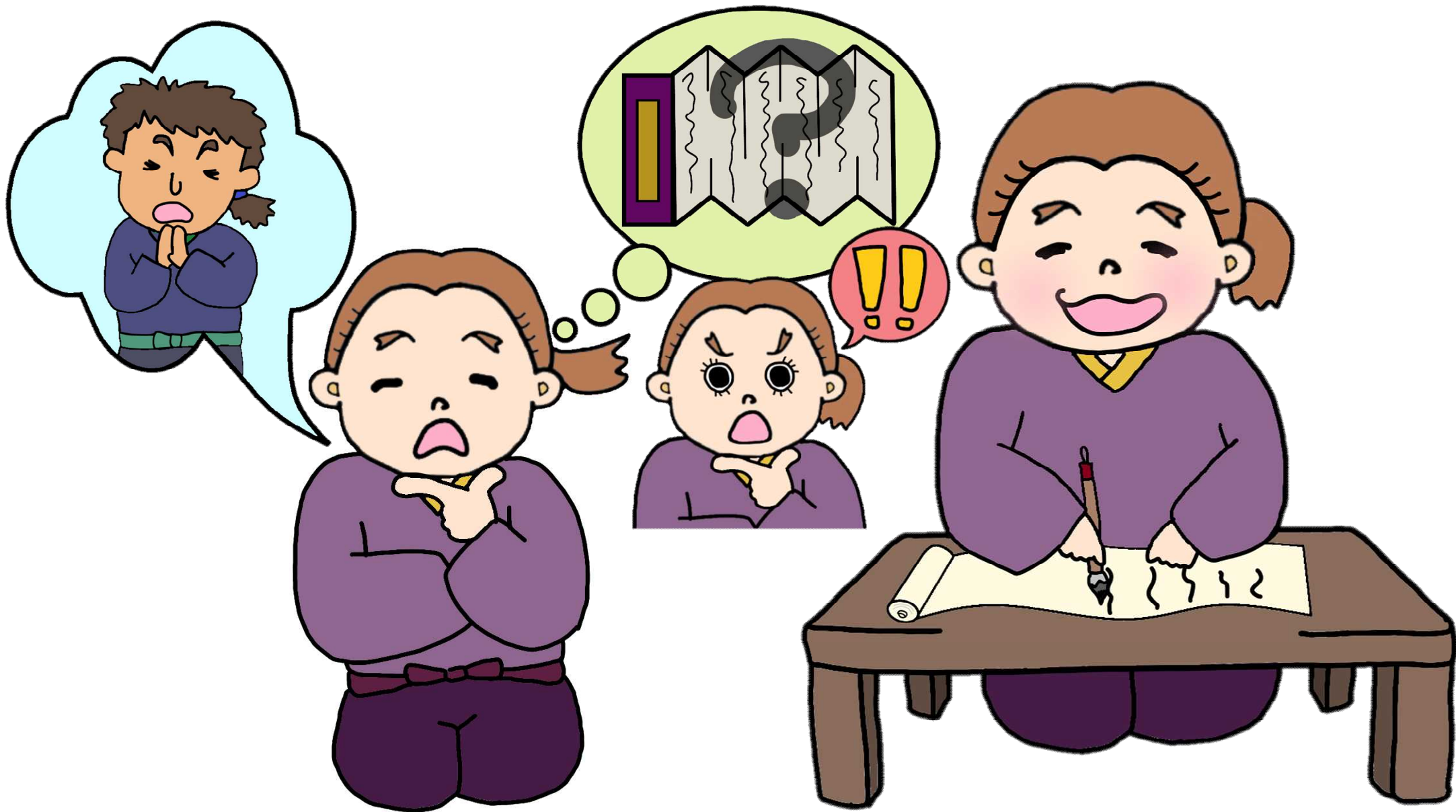
すると、ある日

『うちの家で法事があるから、拝みにきてください』とお願いされました。

『はい』と言ったものの、にわか坊主の長男は、お経の読み方も何も知りません。

色々考えてみたところ、ふと思いつきました

さっそく、墨と紙を出してきて、何かをスラスラと書き始めました。



法事へ行って、席につくと『エヘン』とひとつ咳払いをしてから、ふところから書き付けを出してお経を読みました。

『てーくーんはごーらーたーつーへー、
らはえーましてねーらーたーつーなーくーたーむねー、
だーくらくーごー、だーくらくーごー、れーこーああ、、、』

家の人たちは、
『なんてありがたいお勤めだ』と言って、お膳を出し、お布施もたくさん出しました。
この長男、怠け者だけど、頭が回る男だったのでしょ。



実はそのお経は
『はらがへったらごはんたべ、ねむたくなったらねてしまえ、
あーこれ、ごくらくだーごくらくだー』と書いたのを、逆から読んだだけだったようです。

怠け者でも、運がいいから、頭を使えば出世する人もいるものだという話でした。

おしまい

